



校長室だより

令和4年
1月25日
NO. 8

現在の教育活動

全国的にコロナ感染者が急増する中、岡崎市の小中学校でも感染する児童生徒が増えています。今のところ本校では感染陽性者はいませんが、今後の心配な状況です。

現在は、感染対策をした上で通常の授業を行っているところです。ただし、本年度進めてきた異学年合同『学び合い』の授業については原則中断しています。また、学区外での学習活動（3、4、5年生の社会見学）についても中止することにしました。楽しみにしていた子供たちも多く、残念ですが仕方ありません。校内行事については、可能な限り実施する方針です。



▲ 窯入れ（1月24日）

ただし、今後の感染状況によって対応を変更することがあるかもしれません。その場合は、メール等でご連絡をします。できる限り子供たちの学習活動を保障するように努力していきます。どうぞ、ご理解ください。

市教委の学校訪問

今年度の市教委の学校訪問が、1月20日に行われました。全学年『学び合い』の考え方に基づいた授業をご覧いただきました。当初、2年生と5年生については異学年合同『学び合い』を実施する予定でしたが、感染防止の観点からそれぞれ単独の『学び合い』にするという変更がありましたが、どのクラスからも子供たちが主体的に学びに取り組む様子がうかがわれました。市教委の先生方からも高い評価をいただきました。

授業後、6年生には、「秦梨小のいいところ・自分たちが取り組んできたところ」をテーマに市教委の先生方にプレゼンをしてもらいました。子供たちは、それぞれに文章を考え、読み原稿の作成からパワーポイントづくりまで、担任教師を頼らずに自分たちで準備を進めてくれました。彼らが考えたプレゼンの柱は、『学び合い』と「秦梨小あいさつ運動」についてでした。

当日、市教委の先生方には、説明した内容について質問をしてもらうよう依頼をしておきました。子供たちは何を質問されるか全く分かっていなかったわけですが、質問された内容について、緊張し戸惑いながらも最後まで自分の言葉で回答しようとしていました。

その時の記録をまとめて、信州大学の三崎先生にお便りしました。以下は、三崎先生のブログ「信濃の国からこんにちは」からの転載です。

2022-01-22

学校現場：『学び合い』実践

日本一の『学び合い』学校

日本一の『学び合い』実践校から便りが届きましたので紹介します。この学校は、全クラスで『学び合い』の授業に取り組んでいるだけでなく、異学年の『学び合い』にも取り組んでいる学校として何回か紹介した学校です。

先日、自治体の教育委員会から係長様が学校訪問された折に、全校の全クラスで『学び合い』の授業をされて参観してもらったそうです。参観後、再上学年のみなさんと当該係長様が対話されたそうです。そのときの一部を紹介します。

「いっしょにやろう」という魔法の言葉はどのタイミングで言うの？と聞かれた子どもたちは、「最初に自分で考えて言う時もあるし、考えが浮かばなくて最初から「いっしょにやろう」と育うときもある。」と回答。目標が達成できなかつたときはどうするの？と聞かれた子どもたちは、「なぜできなかつたのかを考える。次に達成できるように、それを生かして、それをまたみんなでやる。」と回答。

「できないことを恥ずかしい」と思っている子には何とアドバイスしてあげる？と聞かれた子どもたちには、「そういう子には、異学年の『学び合い』がいいよ。失敗しても大丈夫だよって言う。」と回答。それを聞いた係長様は「自分にも言ってほしい。そうしたらがんばれる。」と返したそうです。この他にもまだまだありますが、どれも完璧です。

教育委員会をして、(教育委員会に)連れて帰りたい。泣きそうですと言わしめるのですから、間違いなく日本一の子供が育っています。

いや、まいりました。

台本のないやりとりの下でこれだけの回答を引き出すことのできる子供たちが育っています。私でもできません。20年後に間違いなく幸せにくらしてくれていると確信できます。感涙しました。

対話の最後に、市教委の先生方は、子供たちに次のように言葉をかけてくれました。

「みんなをこのまま教育委員会に連れて帰りたいけど、できない。卒業式でのみんなの姿が思い浮かぶ。今から泣きそう。」

そして、帰り際、見送る私にも「もう少しあの子たちと一緒にいたい。」と言ってくれました。何よりの褒め言葉と私は受け止めました。6年生は確かな成長をしてくれました。卒業を前にそのことを実感しています。

そして、6年生のように下級生の子供たちも自分を磨いていってくれることを期待し、楽しみにしているところです。

